

野々市市体育施設整備基本計画(案)

パブリックコメント

野々市市教育委員会

【目 次】

1. はじめに
2. 現状と課題
3. 基本的な考え方
4. スポーツ施設の整備方針
5. スポーツ施設の整備について
6. スポーツ施設の運営について
7. 資料編

資料1：野々市市体育施設整備基本計画検討委員会委員名簿及び開催経緯

資料2：スポーツ施設に関する現状

資料3：市体育施設再編イメージ

1. はじめに

野々市市体育施設整備基本計画は、「野々市市第一次総合計画」を基調とした本市の教育に関する施策を総合的かつ具体的に発展させるための指針とする「第二次野々市市教育ユニバーサルプラン（教育基本計画）」に則り、本市のスポーツの振興をより促進させるため、市全域を対象とした体育施設整備の基本計画案を策定することを目的としています。

1) 市民体育館や周辺の体育施設については、スポーツ・レクリエーションの場として、さらなる充実を図れるように中央公園の拡張計画に併せて、整備計画を策定します。

2) 既存の本市体育施設は、新しいものでも22年以上が経過し、老朽化が著しい状況です。
そこで、体育施設の修繕や大改修または改修等について検討します。

3) 計画の期間

本計画期間は、中央公園の拡張計画と整合を図り、設定することとします。

4) 基本計画案の策定にあたり「野々市市体育施設整備基本計画検討委員会」を設置し、取りまとめました。

2. 現状と課題

(1) 人口・世帯数

過去 20 年間で人口が約 30%増加し、今後も総人口の増加が見込まれる中で、スポーツ施設の整備・充実が求められています。

また、着実に進行する高齢化への対応も必要になってきています。

(2) スポーツ活動の状況

市体育協会に加盟している団体、スポーツ少年団、市内中学校・高等学校の運動部の活動状況やニーズ等を把握しながら、施策を進めていくことが求められています。

(3) スポーツ施設の状況

(市体育施設)

市内に整備されている体育施設において、効果的な整備と運用が求められています。

(学校体育施設)

開放されている学校体育施設を今後も市民ニーズに対応していくことが求められています。

(民間体育施設)

多様なサービスを提供している市内の民間スポーツ施設と連携し、官民の役割分担を 図っていくことが求められています。

(4) 新たなスポーツ施設の整備

陸上競技やサッカー等の市民スポーツ活動に対して市内に競技施設がないことから、隣接する金沢市や白山市の施設が利用されています。

このような中、今後、市民ニーズをふまえて、新たなスポーツ施設の整備を図っていくことが求められています。

(5) 既存施設の長寿命化

全ての市体育施設が開館から20年以上経過しており、施設の老朽化による改修等が必要な施設があります。

特に旧耐震基準で建築した市民体育館の耐震改修、また、新建築基準法を満たしていないスポーツランド（屋内プール）の吊天井の改修など、早急な対応が必要となります。

このような状況をふまえ、既存施設の改修や適正な維持管理により長寿命化を図っていくことが求められています。

(6) 防災拠点としての施設整備

市体育施設は、災害時の拠点避難所として指定されていることから施設の安全性の確保を図るとともに、防災拠点としての充実を図っていくことが求められています。

(7) 施設の効率的な運用

市体育施設をはじめ、学校体育施設の開放などにより、多様な目的で市民のスポーツ活動が行われているものの、最近の市体育施設の利用者数は概ね横ばいとなっています。

このような状況をふまえ、利用時間帯の拡大、少人数の利用に合わせた小規模な空間での貸出など、ユーザー目線でニーズに合った施設の効率的な運用が求められています。

また、市内にはフィットネスやスイミングなどの民間スポーツ施設も多く、役割分担をふまえていくことが必要です。

3. 基本的な考え方

野々市市教育ユニバーサルプラン（教育基本計画）では、「スポーツ活動の推進」を基本的施策として掲げています。

生涯にわたって健康でいきいきと生活するためには、適度な運動を継続することが大切です。

- 1) 幼児期からの子どもにはスポーツに親しむ習慣や意欲を養い、体力の向上を図ります。また、若者にはスポーツに参加する機会の拡充、高齢者には体力づくり支援等、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進を図ります。
さらに、障害のある方にはスポーツに親しめる機会の充実や地域社会との交流を推進します。
- 2) 生涯スポーツの普及・推進、地域やスポーツ関係団体との連携による競技スポーツの充実・強化とバリアフリー化した市体育施設の活用を図ることにより、誰でもが行えるスポーツ活動を推進し、一人ひとりが健康で豊かな生活を営む活力あふれる地域社会を目指します。

4. スポーツ施設の整備方針

○総合スポーツゾーンの形成

本市のスポーツ活動の普及と振興を図るために、今後、中央公園の拡張計画を検討していく中で、求心力のある総合的なスポーツゾーンの形成を目指します。

老朽化する体育施設の改修等を行うとともに、市体育施設の再編により集約化・複合化を図り、本市のスポーツ活動の中心的な役割を担う（仮称）新スポーツ交流館や陸上・サッカー競技場などの新しい体育施設の整備を検討します。

さらに、災害時に備えたスペースや設備の導入・雨水利用、太陽光発電等の再生可能エネルギーや蓄電池等の導入等、環境に配慮した施設整備を検討します。

○地域のスポーツ施設の整備・改善

市内に分布する市体育施設や小中学校の体育館・運動場、また公園・緑地等において、幼児からお年寄りまで誰もが身近にスポーツが親しめる環境づくりを推進します。

定期点検やメンテナンスの実施、冷暖房設備やエネルギー効率のよい設備の導入など、計画的な施設改修、施設改善に努めます。

また、災害時の拠点施設として重要な役割を図ります。

5. スポーツ施設の整備について

(1) 総合スポーツゾーンの形成

■陸上・サッカー競技場

隣接する金沢市及び白山市では公認1種、2種の陸上競技場があるため、競技需要や地域バランスをふまえると公認3種または4種が想定されます。

人工芝は、最近ではクッション性能の向上等により、プレーヤーへの負担も軽減され、整備事例が増えてきています。

また、本施設は、陸上競技やサッカー、ラグビーだけでなく、グラウンドゴルフやレクリエーション等、多機能な施設として検討します。

初期工事費や維持管理費用をふまえつつ、より多くの市民に利用してもらうために、適正な整備手法等について検討します。

■(仮称)新スポーツ交流館

子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が、個人や家族、グループ等のレクリエーション・スポーツ活動の場として整備し、交流人口の創出を図ります。

観客席を設置し、競技大会の観戦ができる新体育館をはじめ、屋内プールや武道場(柔剣道場)、弓道場、クライミング施設等を集約化・複合化した体育施設の整備を検討します。

また、健康・体力づくりの相談やスポーツ活動の情報発信を図るコミュニティ機能を導入します。

さらに、多様で災害に強い設備を導入し、防災機能の強化を図ります。

■市民体育館

市体育施設で最も利用者数が多いことから、優先的に耐震改修の整備を図ります。

■市民野球場・雨天練習場

現在地での整備を基本とし、新規格のスコアボードの改修や管理棟の冷暖房設備の導入等の整備を図ります。

■中央公園運動広場

中央公園の拡張計画に併せて、既存体育施設の集約化・複合化を進める中で必要に応じて施設の配置及び規模の見直し等を検討します。

その他、付帯設備の定期点検による適正な維持管理に努めます。

■中央公園テニスコート

旧式の全天候型コートで老朽化が進んでおり、改修が必要です。ただし、中央公園の拡張計画に併せて施設の集約化を検討します。

■相撲場

現在地での整備を基本とし、定期点検による適正な維持管理に努めます。

(2) 地域のスポーツ施設の整備・改善

■スポーツランド

屋内プールをはじめ、テニスコート、ゲートボールコート等が集積し、本市のスポーツ拠点としての一翼を担っています。中央公園の拡張計画に併せて、既存体育施設の集約化・複合化を進める中で、必要に応じて施設移転の受け皿として検討します。

(屋内プール)

屋内プールは、新建築基準法を満たすための吊り天井施設の対応、空調設備の老朽化等、大規模な改修工事が必要となっています。

また、ランニングコストがかかる設備を有していることから維持管理費用も考慮する必要があります。

したがって、中央公園の拡張計画に併せて、移転・改築について検討します。

(テニスコート)

現在地での整備を基本とし、定期点検による適正な維持管理に努めるとともに、コートの増設を検討します。

(さわやかホール)

現在地での整備を基本とし、定期点検による適正な維持管理に努めます。

今後、名称の変更を含め、施設の利用方法や存続の必要性について検討します。

■スポーツセンター、押野中央公園運動広場、健康広場等

現在地での整備を基本とし、定期点検による適正な維持管理に努めるとともに、省エネ型の設備更新や災害時の拠点施設として防災機能の強化を図ります。

スポーツセンターでは、空調設備の導入など、利用者ニーズに配慮した施設改善を検討します。

■武道館（柔剣道場）、弓道場

密集した市街地に立地し、駐車場の収容台数が少ないことから競技大会の実施が困難な状況となっていることから、利用者数が伸び悩みもしくは減少しています。

中央公園の拡張計画に併せて、移転・改築を検討します。

また、既存施設については、隣接する中学校や公的施設での活用を検討します。

6. スポーツ施設の運営について

○市体育施設や学校体育施設の利用時間帯の拡大や小規模な空間での貸出等、市民ニーズに合った施設の効率的な運用を検討します。

○市内にはフィットネスやスイミングなどの民間スポーツ施設も多く立地しており、官民の役割分担をふまえた施設の整備や運用を検討します。

○利用者への良質なサービス提供や向上、管理運営コスト削減を図るために指定管理者制度の導入など、民間事業者のノウハウの活用を検討します。

7. 資料編

資料1 野々市市体育施設整備基本計画検討委員会委員名簿及び開催経緯

(1) 委員名簿

職	氏名	所属等
委員長	牧口 茂子	金沢工業大学 スポーツ考房 課長
副委員長	宮川 渉	野々市市体育協会 会長
委員	西村 敬司	野々市市スポーツ少年団 本部長
委員	亥野 正治	野々市市スポーツ推進委員協議会 代表
委員	禾几 文明	野々市市小中学校校長会代表（野々市市立布水中学校長）
委員	藤田 雅顯	野々市市連合町内会 会長
委員	山本 博	野々市市身体障害者福祉協議会 幹事
委員	澤村 昭子	野々市市女性協議会 副会長

(2) 開催経緯

	検討項目
第1回 (平成26年9月3日)	(1)検討委員会の業務について (2)市体育施設の現状について
第2回 (平成26年11月6日)	(1)課題の整理について (2)スポーツ振興計画素案（骨子）の検討について
第3回 (平成27年1月16日)	(1)体育施設整備基本計画（素案）の検討について
第4回 (平成27年2月19日)	(1)答申書とりまとめについて

- ・市体育施設利用者アンケート調査 平成26年9月16日～10月15日
- ・スポーツ活動団体アンケート調査 平成26年9月16日～10月24日

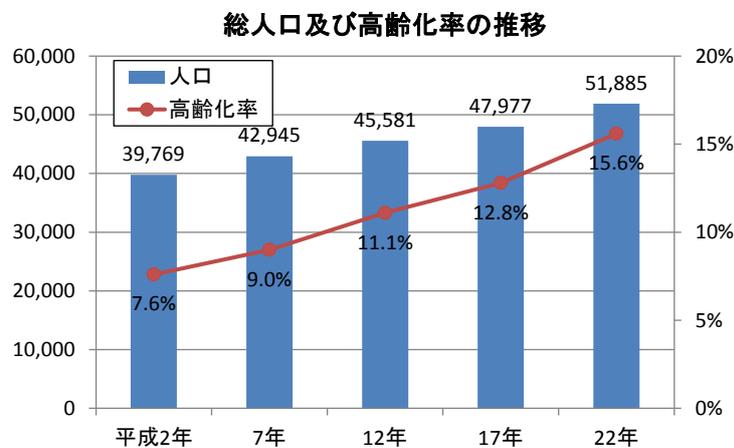
資料2 スポーツ施設に関する現状

(1) 野々市市の現状

市民のスポーツ活動や施設の整備状況、利用状況等について以下に整理します。

《人口・世帯数》

・過去 20 年間で人口が約 30%増加し、今後も市総人口の増加が見込まれる中で、スポーツ施設の整備・充実が求められています。また、着実に進行する高齢化への対応も必要になってきています。



資料：国勢調査

《スポーツ活動の状況》

・市体育協会に加盟している団体、スポーツ少年団、市内中学校・高等学校の運動部の活動状況やニーズ等を把握しながら、施策を進めていくことが求められています。

市内スポーツ団体の状況

区分	団体数	会員数	備考
体育協会	30 団体	1,220 人	H26.3.31
スポーツ少年団クラブ	16 団体	509 人	H26.3.31
野々市中学校運動部	14 団体	510 人	H26.9.1
布水中学校運動部	13 団体	507 人	H26.9.1
明倫高校運動部	21 団体	513 人	H26.9.1

資料：スポーツ振興課調べ

《スポーツ施設の状況》

(市立体育施設)

- ・市内整備されている体育施設において、効果的な整備と運用が求められています。

市民体育館

⇒ 最も利用者数が多いものの、耐震改修が必要となっています。

市民野球場・雨天練習場

⇒ 旧式スコアボードや排水処理等が問題となっています。

中央公園運動広場

⇒ 3番目に古く、照明設備が老朽化しています。

中央公園テニスコート

⇒ 2番目に古く、コートの劣化が進行しています。

相撲場

⇒ 屋根や外装塗装が劣化しています。

スポーツランド（プール）

⇒ 吊天井が新しい建築基準を満たしていません。

スポーツランド（テニスコート）

⇒ コート数が不足しています。

スポーツランド（さわやかホール）

⇒ 外装塗装が劣化しています。

スポーツセンター

⇒ 2番目に利用者数が多いものの、施設の老朽化が進行しています。

押野中央公園運動広場

⇒ 利用者の駐車場がありません。

健康広場

⇒ 最も古い施設であり、設備等が老朽化しています。

武道館（柔剣道場）

⇒ 耐震改修を実施したものの、駐車台数が不足しています。

弓道場

⇒ 駐車台数が不足しています。

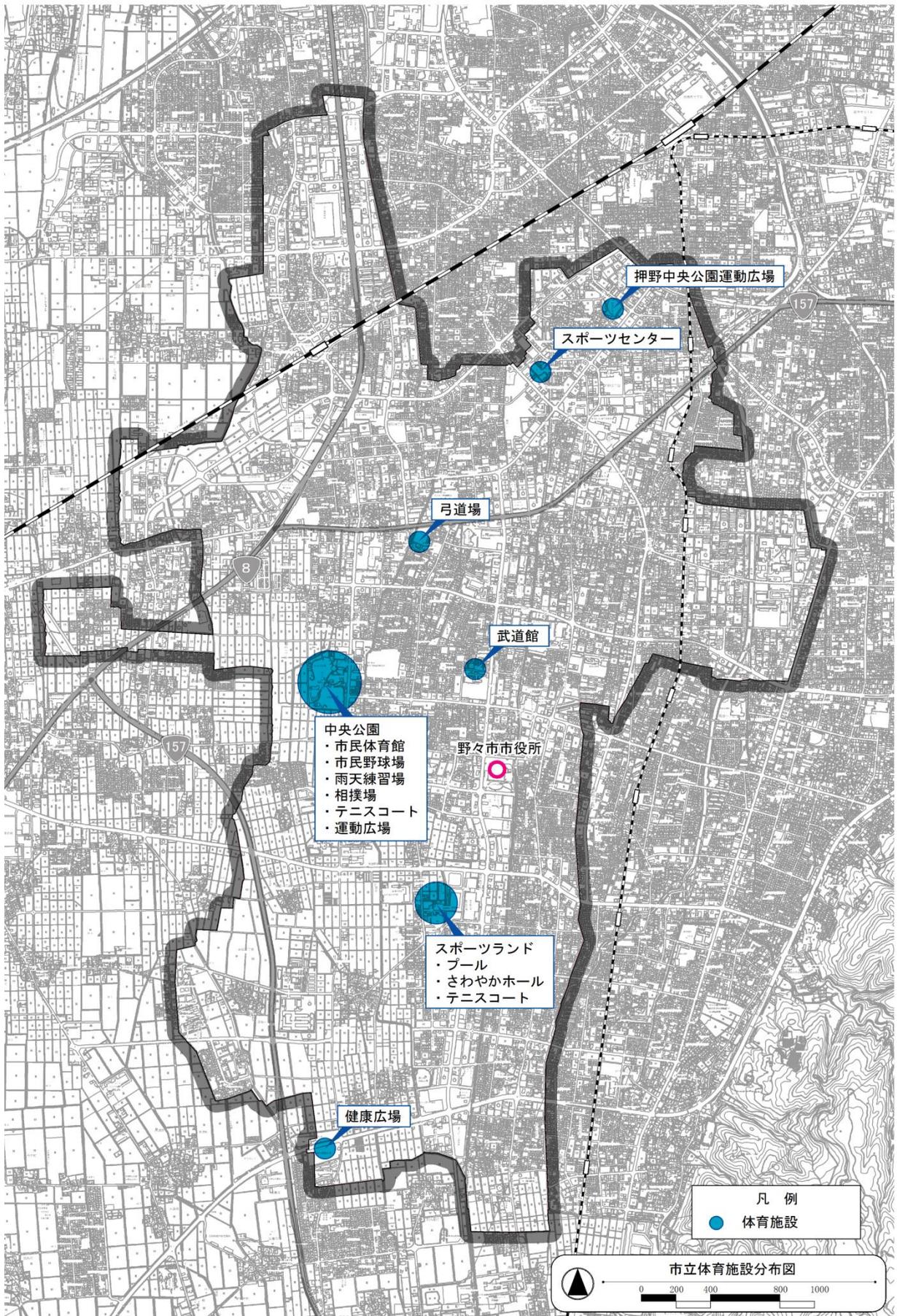
(学校体育施設)

- ・開放されている学校体育施設を今後も市民ニーズに対応していくことが求められています。

(民間体育施設)

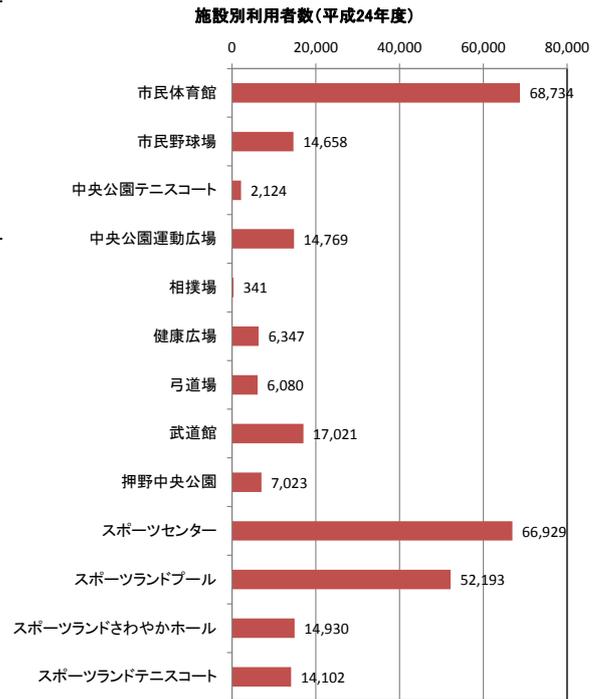
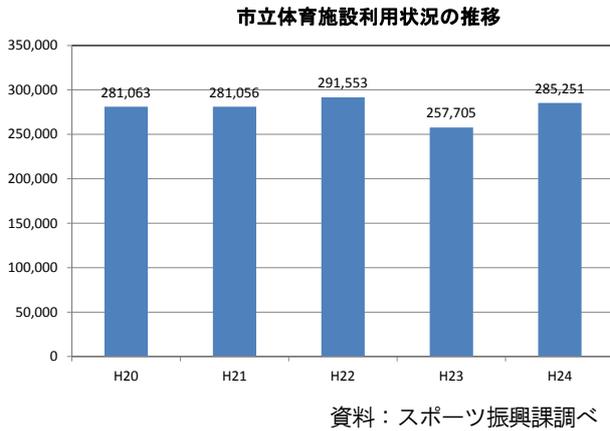
- ・多様なサービスを提供している市内の民間体育施設と連携し、官民の役割分担を図っていくことが求められています。

市立体育施設の分布状況



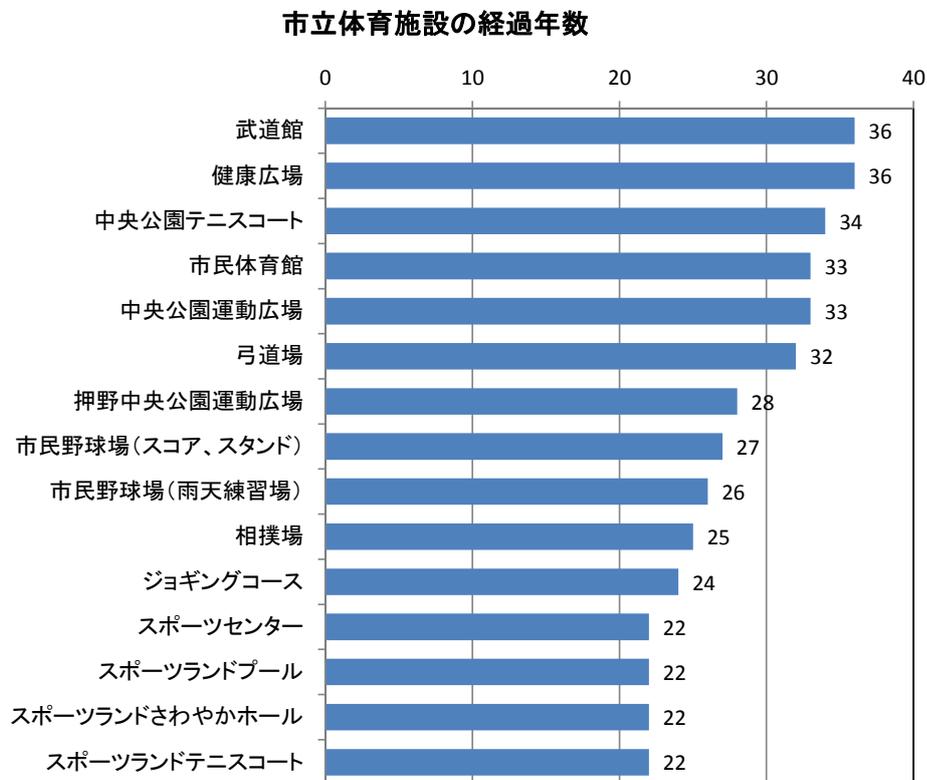
《市立体育施設の利用状況》

- ・ 利用者数は過去 5 年間で年間 28 万人前後と概ね横ばい傾向となっており、増加に向けた取り組みが求められています。
- ・ 施設別では、市民体育館が最も利用者数が多く、次いでスポーツセンターとなっています。



《市立体育施設の経過年数の状況》

- ・ 全ての市立体育施設は開館から 20 年以上経っており、適切な維持管理を行うとともに長寿命化を図る取り組みが求められています。



平成 26 年 3 月現在

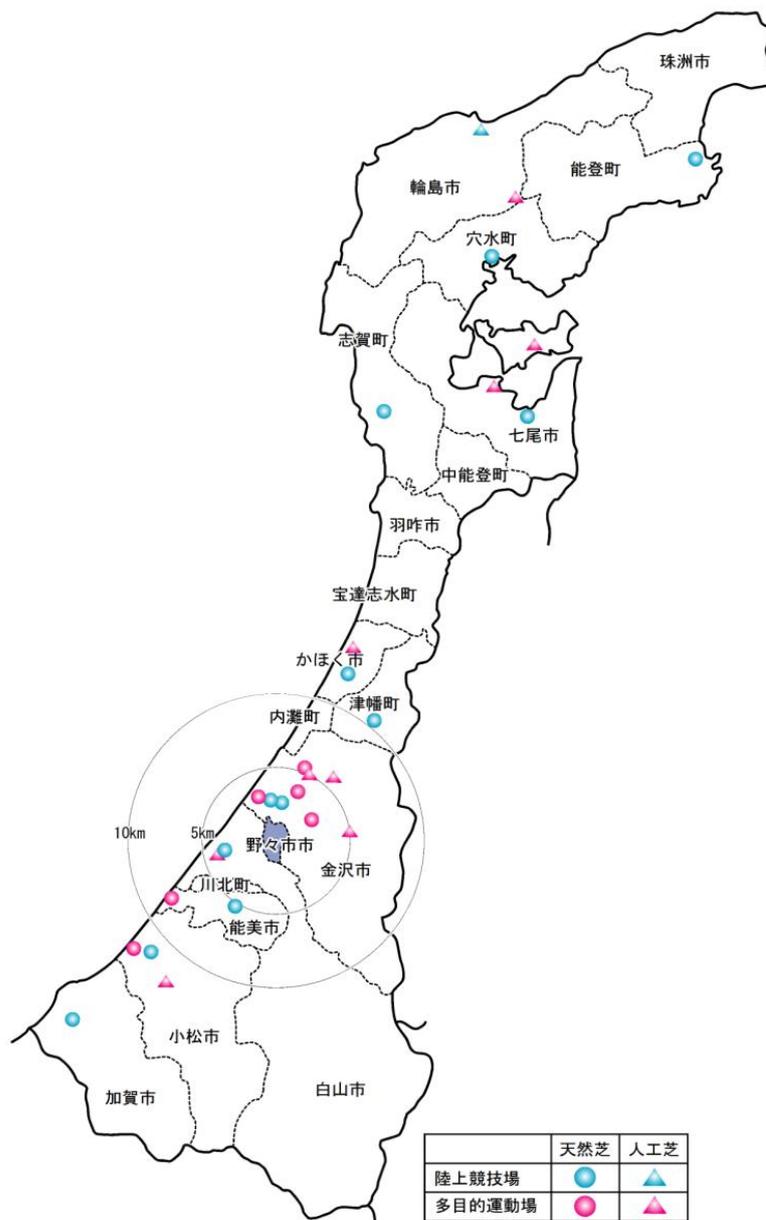
資料：スポーツ振興課調べ

《市立体育施設の耐震改修等の状況》

- ・旧耐震基準の施設は、市民体育館と武道館があり、耐震改修は、武道館は実施済み、市民体育館は未実施となっています。
- ・また、スポーツランドの屋内プールの施設は、東日本震災後における建築基準法の改正から現在の吊天井では基準を満たさないことから、早急な対策が求められています。

《県内体育施設の整備状況》

- ・市内に活動団体はあるものの、市内に競技施設がない体育施設として、陸上競技場、サッカー場及びラグビー場があります。
- ・隣接する金沢市や白山市には陸上競技場や多目的運動場（サッカー場、ラグビー場等）が立地しているものの、身近に利用できる新しいスポーツ施設の整備が求められています。



資料：スポーツ振興課調べ

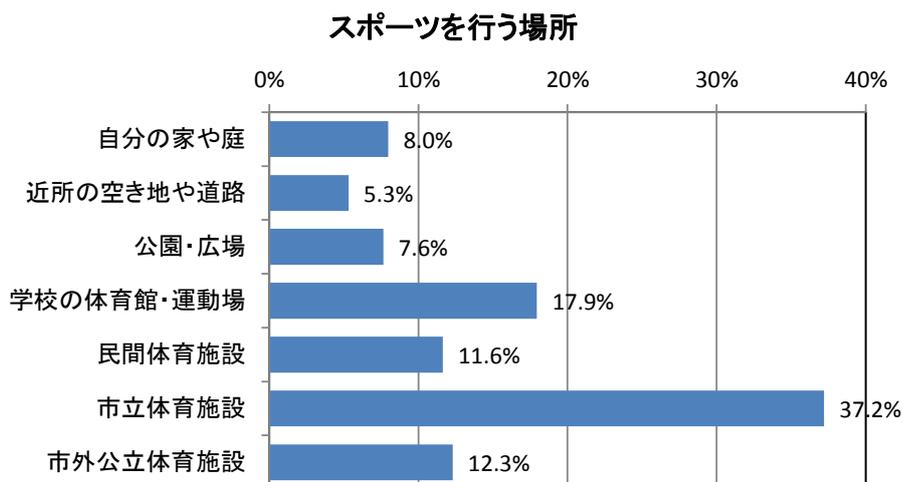
(2) 市民意向調査

市内の体育施設に関する市民のスポーツに関する現状と意向について以下に整理します。

《市立体育施設利用者アンケート調査》

市立体育施設の利用者を対象に実施しました。(回答数=243件)

- ・スポーツを行う場所は、市立体育施設が37.2%と最も多く、次いで学校の体育館・運動場が17.9%、市外公立体育施設が12.3%となっています。
- ・また体育館に関しての要望が多く、規模の大きなものが求められています。



《スポーツ活動団体アンケート調査》

市体育協会加盟団体及び市スポーツ少年団クラブ登録団体を対象に実施しました。

- ・体育協会団体の施設整備に関する要望としては、陸上競技場、サッカー・ラグビー、弓道場、武道場、クライミングの新施設整備の要望があります。テニスコートの不足や野球場等の改修が求められています。

